

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372700456		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	恵寿荘認知症対応型共同生活介護事業所(2階)		
所在地	津島市唐臼町四反田25番地		
自己評価作成日	平成30年10月26日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372700456-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372700456-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成31年2月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域に根付いた施設づくりを念頭に置き、地域に密着した活動に力を入れております。地域で開催される催し物・地域交流会には積極的に参加しています。又、天候の良い日は、積極的に外出支援を展開し、天候の悪い日は、施設内で季節に応じた飾りつけの制作、干支の貼り絵制作を行って頂いております。日々の暮らしの中では、意向を確認しながら、家事活動、生活活動等の共同生活の支援を行っております。ボランティア、実習生等も受け入れ、隣接する関連施設と密接な関係を築きながら、地域社会への貢献を務めて参りたいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居される前と変わらない生活を送って頂く為に、地域の方達関りが持てる様に、ミーティング等で要望を共有、実現できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居前の聴き取り、入居後の会話ケアなどにより、馴染みの店・場所等へ出掛ける事にしています。買い物支援時には、自ら会計してもらおうような極当たり前の活動を支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループないで開催される、認知症カフェや認知症サポーターとの方との交流会への参加、地元の祭りの観覧などを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、現状報告、課題解決などをテーマ挙げ、利用者のみならず家族の方、公益関係者、職員などから意見を取りまとめ、活かし反映した支援をしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的な運営推進会議への参加だけではなく、日頃から手続きの際に助言を頂いたりしております。地域包括支援センターの方には、地域における現状等の情報交換をしております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一時性・非代替性・切迫性の3要素を満たさない限り、身体拘束は行っておりません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する資料を控え室などに置き、常に念頭に置いております。また、職員間で入居者の状態の情報交換をして、ソフト・ハード両側面から防止・発見に努めています。」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を利用されていた方を参考に、自立支援、個別ケアに向けた取り組みを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の際や、面会にこられた時などに説明をさせていただき、不明な点等があれば、連絡をしてもらえるように支援しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各種行事等に参加のお知らせを行うとともに、参加された時には、改めて意見・ご要望をお聞きし、それらを基に日頃の支援をあたべく、朝礼時、担当者会議、ミーティング等に反映しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に一度の施設長によるヒアリング、日々のコミュニケーションに加え、担当者会議やミーティング等で意見交換が出来る雰囲気作りを心掛け、反映させる様にしております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人が定めた就業規則に則り、働く意欲作りの環境整備に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修会・勉強会には積極的に参加し、県連絡協議会の研修会、全国大会の研修会にも参加して、研修資料の閲覧、法人内で行われる研修発表にも参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者交流会への参加、各事業所への立ち入りの際には、情報交換会ができるように関係を構築しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前から、施設見学をしていただき、入居後は、会話ケアから導き出される要望、問題等を聞き逃さずに常日頃から関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に見学をしていただくと共に、入居後も密接な関係を築けるようにしております。又、前任者の介護事業所の方にも情報が得られるように情報交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	個別ケアの確立を基に、真の思いを理解しあえるように、日頃から関係構築はもとより、多方面からの情報を取り寄せるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、「働く場」ではなく、「生活に携わる場」との認識持って、就業時間内では、家族の一員となり、日々の生活に密着関係作りを心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	共同作業、共同活動に積極的に参加してもらえるように、各種行事等への参加のお知らせをしております。又、状態変化の際には、すぐに連絡が出来るように面会時等で確認をしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前、入居後と変わらない生活スタイルを送って頂くべく、常日頃からご要望等をお聞きし、実現する支援をしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別ケアを推し進めながら、他者との関係構築作りが出来るように支援をしております。日頃から活動内容を吟味して、その方に則した支援を展開しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設利用終了後も、出来る限りの支援、助言をしていきます。又、他のサービス機関等に利用変更の際は、あらゆる情報提供をいち早く進めて参ります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話ケアから得られる情報だけではなく、多方面からの情報収集にあたり、真の思いを理解できるように努めています。ミーティングノート等を活用して、職員が共有できるようにしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日中の会話ケアを中心に聞き出せるように努めています。それに合わせて、ご家族の方、ご家族以外の面会者の方達のも同様にお聞きし、施設ケアつなげていける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活場面で、職員間では「気付き」を念頭に置いて、あらゆる生活場面では、観察、推察、実行を繰り返していけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個別ケアをモットーに、日々の生活中から見いだせるための会議等を含めて、職員全員参加で把握に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各記録物の記載、確認をはじめ、会議等での意見交換を反映して、実践に結び付けるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	固定観念にかられず、時代にあったニーズを支援して、あらゆるサービス提供を模索して展開しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	社会資源、マンパワーを活用して、ご家族を含めた交流をしております。交流の場を広げるために、ボランティア交流会の参加、地元社協の方達にも協力を仰いでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人関連の医療機関に定期受診を行い、きめ細やかな指示を頂いております。又、専門医への受診もご家族の方の協力を得ながら、受診出来るように支援をしております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職同様に、日常生活活動の支援に携わり、いち早く状態変化の発見を出来るようにしております。体調変化等が見られれば報告して、場合によっては医療機関の指示をお仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、情報提供書の確認を行い、ご家族の方の同意の上でICに立ち合わせてもらい、入退中、他院後のプラン説明等を受けております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時からご家族の方には、重度化になられた時の対応は説明とご理解を得ているものと思います。施設としての具体的な重度化の目安を決め、はんだんしているところです。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急隊員による、救急処置の講習会に参加して、応急手当や初期対応に当たっています。急変時などは、マニュアル作成、各自確認をとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	来るべき災害を想定した防災委員会を、関連施設も含めた会議を毎月一回開催しています。訓練は、夜間想定訓練を含めた防災訓練を、関連の特養と開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱いに関しては、常日頃から注意喚起を行っています。プライバシーを確保するうえで、生活場面にかかわる事には、十分な配慮を行うようマニュアルをもとに支援をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定をされる際は、出来る限りの機会を設け、決断をせまわれるときも、出来る限りの自己決定を尊重しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課に沿っていただく事もありますが、必ずしも無理強いせず、個別ケアに照らし合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前と変わることなく、愛用されて居た物を使用して頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には職員が調理をしていますが、食材によっては一緒に参加出来る様に工夫をしています。配膳、下膳、後片付けは個人個人に合わせた参加をして頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ケアチェックを活用して、日々の食事摂取量を把握し置しております。食事・水分制限の指示がある方は、ドクター関連施設の管理栄養士の指導の下、適切に対処出来るように支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後適切な時間を置いて、口腔ケアを支援をしています。個々の能力に合わせた支援を行う事により、自立支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックを活用して、排泄パターンを把握出来る様にして個々に合わせた声掛けを行い、トイレでの排泄を支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動レクリエーション活動等を取り入れ、生活リズムの構築を図っております。排泄表では、排便状況の把握をし必要な方には、水分チェック表を作成し、十分な水分を摂って頂ける様に支援しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	本人の希望に沿う様に、入浴時間や回数に配慮したり、季節によっては、柚子湯や菖蒲湯などを楽しめる様に支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床時間や就寝時間は、本人のペース、行動把握に努めています。季節によっては、湯たんぽ、加湿器を使用して快適に過ごして頂くように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋にて内容の把握に努め、日常生活活動に留意しています。異常時等が見受けられたら、直ちに看護師に相談を行い然るべき対処を行い、医療機関に連絡を行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活活動が負担にならないように、体調等を見極めて参加して頂く様に支援しております。会話ケアから、楽しみ事の発見に努め、実現できるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に沿った外出支援を行っていますが、安全上の配慮から小人数での参加にとどまっています。外出表を作成して、出来る限り公平に支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭が絡む支援に対しては、個人の財布を用意して出来る限りのやり取りをして頂く様に支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、ご自分で電話を使用できる様に支援しております。出来ない方は、こちらが代わりに連絡を取り、ご要望等をお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各フロアリビングには、季節に合わせて制作した飾りつけを掲示して、より多くの楽しみを持って頂く様に支援しております。又、クラブ活動で作られた作品も同時に掲示しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアにはソファ等を配置して、どなたでもくつろいで頂ける様に支援しております。時には、職員も間に座り、日頃の何気ない会話を楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使う慣れた物、お気に入り物の持ち込みをご家族の方をお願いして、出来る限りの落ち着かれる空間作りを支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個別ケアに沿った内容で、各生活活動を送って頂き、共同生活だからこそ見出せる事柄を見つけて、活動展開が出来る様に支援しております。		